

## 自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008 ~2011

課題番号：20330187

研究課題名 (和文) 我が国の小・中学校『ものづくり教育』再構築に関する研究

研究課題名 (英文) Research on the Reconstruction of Craft Education in Elementary Schools and Junior High Schools in Japan

研究代表者

若元 澄男 (WAKAMOTO Sumio)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：50240453

研究分野：美術教育

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：(1) ものづくり (2) 図画工作・美術科 (3) 家庭科 (4) 技術・家庭科  
(5) 国際比較 (6) スロイド (7) 国際情報交換 (8) フィンランド：スウェーデン

## 1. 研究計画の概要

本研究は、我が国の小・中学校における『ものづくり教育』を、「生きる力」や「確かな学力」を実現する教科のあり方や学習内容・方法に照らして再構築する検討を行うため、次を行う。

(1) 我が国の『ものづくり教育』に関する問題点の洗い出しと整理 (初年度・平成 20 年度) を行うこと。

(2) 我が国及び北欧二国 (フィンランド・スウェーデン) における『ものづくり教育』の実態を明らかにすること。

① 我が国とフィンランドの小・中学校『ものづくり教育』実践の現状と特徴を明らかにする (平成 21 年度) こと。

② 我が国とフィンランドの小・中学生及び保護者の「ものづくり」や『ものづくり教育』に対する意識の現状を明らかにするとともにスウェーデンの実態について明らかにする (平成 22 年度) こと。

(3) 我が国における『ものづくり教育』再構築の検討を行う (平成 23 年度) こと。

## 2. 研究の進捗状況

我が国と北欧二国 (フィンランド、スウェ

ーデン) における『ものづくり教育』の実態を明らかにし、我が国の『ものづくり教育』の再構築のための資料を得るために、これまで以下のことを行った。

(1) 平成 20 年度には、我が国の『ものづくり教育』に関する問題点の洗い出しと整理を行うとともに、フィンランドの研究者 5 名を招いて「ものづくり教育国際シンポジウム」を開催し問題提起を行った。

(2) 平成 21 年度には、『ものづくり教育』に関する意識調査の分析を行い、日本の小学校 6 年生および中学校 3 年生の『ものづくり教育』に対する好意度や有用感、その効用感を明らかにした。現在、その成果を学会誌に投稿すべく、原稿の執筆を行っている。

(3) フィンランドの学年末にあたる平成 22 年 5 月に行った『ものづくり教育』に関する意識調査 (フィンランドの 6 年生と 9 年生を対象) について、フィンランドの共同研究者と協議を重ね、日本の調査結果と比較しながら分析を行っている。

(4) フィンランドの国家教育委員会を訪問し、『ものづくり教育』に関わる担当者から、フィンランドの『ものづくり教育』の現状と

これからの展望について聞き取り調査を行い、フィンランドの『ものづくり教育』の今後の方向性について情報を得た。

(5) フィンランドのヘルシンキ大学、ユバスキュラ大学、及びトゥルク大学ラウマ校を訪問しスロイド（クラフト）教育の研究者からフィンランドにおける『ものづくり教育』のねらいや実態等について聞き取り調査を行うとともに、小学校および中学校を訪問し『ものづくり教育』の実態を明らかにした。

(6) スウェーデンのリンショーピン大学およびヨーテボリ大学を訪問し、技術教育ならびにスロイド（クラフト）教育の研究者からスウェーデンにおける『ものづくり教育』のねらいや実態等について聞き取り調査を行い、我が国の『ものづくり教育』を再構築するための情報を得た。

(7) 以上の調査研究及び訪問・インタビュー調査を踏まえ、フィンランドの共同研究者と協議をしながら、『ものづくり教育』についての提言を最終年度に向けて検討しているところである。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

研究の進捗状況に記したように、ほぼ順調に進展している。

日本とフィンランドの学年度開始時期のずれに由来する調査結果の整理が計画よりも少し遅れ気味ではあったが、平成 22 年度末に行ったフィンランドでの研究打合せ・実地調査、及びスウェーデンでの実地聞き取り調査によって、ほぼ研究計画通りの成果を得られている状態にある。

### 4. 今後の研究の推進方策

これまでの調査研究及び訪問・インタビュー調査などの成果に基づいて、我が国における小・中学校『ものづくり教育』の再構築に

向けての知見を整理し、具体的な提言に向けての課題を検討する予定である。

そのために、フィンランド・スウェーデンの共同研究者とともに再度、「ものづくり教育国際シンポジウム』を開催し、その成果も含めて国際誌への報告を行う。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

1. 三根和浪・橋本泰幸，ものづくり教育発祥の国の今ーフィンランドとスウェーデンの現状と課題一，第 33 回美術科教育学会富山大会，2011.3.26，富山大学
2. 鈴木明子・庄山茂子 他，家庭科の自己評価活動にみる布を用いた製作学習の成果に関する研究，日本教科教育学会第 36 回大会，2010.10.2，弘前大学

〔その他〕

ホームページ等